

なきごえ



1972

3

大阪市
天王寺動物園協会

世界のクマ

小原 秀雄

クマは、動物ものがたりでは、小肥りの見かけのせいか善人の役です。けれども、見かけと気性とはかんけいはありません。クマはそれなりに肉食性を持った、食肉類の1種です。

クマは、食肉類の中で最も大型ななかまです。ホッキョクグマとアラスカヒグマとどちらが大きいかは、記録がはっきりしていないので、まだきめかねますが、体長3m、体重750kg以上という大きさになることは確かです。トラやライオンの体重の倍以上、3倍にもなるといえますから、最大の食肉類です。

動物の体つきは、かならず生活と深く関係しています。クマの大きすぎてずんぐりしていることも次のような点で生活に関係しています。まずそれは、寒い地方での生活に適しています。体型が球型に近いほど、体積のわりあいに表面積が少なく奪われる熱が少なく、冷えにくくなります。そして、その球型が大きいほどよいのです。とはいえ体の大きさにはまた別の限度があります。大きな体を動かす四足の太さと、それを動かすのに費すエネルギーを補給する食物が必要です。大きな体を動かすには、それだけエネルギーがいりますし、それを動かしてみあうだけの食物のとり入れとの間に、収支のバランスがとれていなければなりません。クマの大きさは自然界のなかでこのバランスがどうにかとれているところで、定まっているといえましょう。あの小肥りの愛敬のある体つきは、一つは球型に近づく適応のしかたというわけですね。

クマの尾がごく短かいのは、球型になっている体つきに適したことであり、ネコのなまのくまのように、樹上棲なのではないためにバランスをとるのにどうしても尾が必要なおけではないからといえるでしょう。さらにクマがこの大きな体になっていることは、雑食性と関係があります。クマの巨体を維持するのに、肉食だけではいられないとすると、クマのすみかには大きなシカなどがたくさんいて、クマがそれを常食にしていなければなりません。クマのいる場所では大きなヘラジカやアカシカがいますが、それとともトラやライオンのすみどころにいるスイギュウやキリンには及びませんし、数が少ないのです。

クマが巨体を維持するには、数少ない大型動物をとらえるよりも、手当たりしだいになんでも食べられる方が有利なようです。北方の森林では秋には木の実がたくさん実ります。また時期によっては、サケなどが川をさかのぼります。クマは、こういうものを、次々と食べる方がぐらしやすいのです。そして冬には、巨体に貯えた脂肪が冬でもりして過すというわけですね。

北方の針葉樹林などではまた、熱帯林とはちがって、下草が余り茂らず、木の下はすきまがあります。クマは、その空間を通り抜けて活動するには、ほどよい大きさをしてもらいます。とはいえ、雪の中ややぶをぐりぬけるには力も必要です。クマの巨体は、大方の持主たらしめてもいます。一口でいえば肥えて体の大きいクマも、すみかどくらしぶりによってちがいがあります。それらをいくつかの種に分けます。世界中には次のようなクマがいます。

北極地方には、半水棲で、それに適して、足がオールのように太く、体がオットセイやアザラシのように長くなったホッキョクグマがいます。白くて、耳は小さく尾もとくに短かく、寒い氷と雪の地方にすむのに適した体つきです。これをシロクマともいいますが、白いクマはカナダの西南部に、アメリカグマの変種としてカーモードグマというのがありますから白熊の名は不適当です。

このアメリカグマは、色の変化が多いクマで北アメリカ大陸に広くすみ、ツキノワグマくらい大きさのクマです。そのほか、南アメリカのアンデスには眼鏡のような白斑が顔にある小



(ヒマラヤグマ)

さいメガネグマがいます。熱帯のものほど小型で、四肢が長めになります。毛も短くよく木にのぼるのがマレーグマで東南アジアにすみま。

そのほか、インドとセイロンにナマケグマがいます。これは長い白い爪と髭がよく動くクマで、毛が粗くて長いのが特徴です。そして東アジアには日本の本土までツキノワグマがすみま。ヒマラヤグマも同じ種です。

ヒグマは最も広く温帯と寒帯林にすみま。大小様々で、シリアヒグマはツキノワグマくらいで、一方アラスカヒグマは最大のクマです。チベットの白っぽいヒグマ、北アメリカのハイイログマまでをふくめて、全てを1つの種とするか、いくつかに分けるかで呼び方も様々ですが、要するに茶色で大型のヒグマが北半球に広く見られるのです。

さてクマは、体をせわしなく動かしながら、毎日食物をあさってくらしています。クマは主ににおいによつて食べものを探しますから、よく鼻先を方々につっこんだりしますし、あしのうららをべったりと地につけて内まで歩くので、歩き方も体をゆすってコミカルです。しかし、じっさいには雑食性ではありながら、基本的には食肉類ですから、鋭い牙と強い爪を持った強力なけもの、食べられる動物は逃がしません。チャンスがあれば大きなシカなどでも襲いかかりますし、屍肉を喜んで喰ひます。虫類や魚、木の実、それに若草や芽など植物も広く食べま。

見かけの愛らしさで、クマを見損ってはいけません。もちろんどんな猛獣でも、理由なしに人間を襲いません。その点猛獣といえは人間を攻撃すると思えるのはまちがいです。人間にはわからない彼らの驚きやおそれ、急な気分の変化などもあります。

クマが人間を襲うときに、死にまねるとよいというのは、ウソです。クマは屍肉を食べるので、死にまねは役に立ちません。またクマはにおいで探るのですから、死んだようになったこともわかりません。わずかに、抵抗して怒らせるより良いというだけです。逃げるとき、身につけたいろいろの物を投げたり、シャツなどをすてる方がまだしもでしょう。

北海道のヒグマは、世界中のクマの中で特に気が荒いものです。理由はよくわかりませんが狭いためでしょう。

ホッキョクグマやアラスカヒグマ、ハイイログマやメガネグマなどは、絶滅が心配されています。

女子栄養大学教授 (動物学)

なきごえ3月号もくじ

世界のクマ	2
クマ類の繁殖について	3
動物園グラフ	4・5
「クマ」に関する調査報告の概要	6・7
動物園ニュース	7

クマ類の繁殖について

住吉 尚

クマは日本でも一般的な動物で、動物園などで良く飼育されておりますが、クマ類の繁殖は比較的むずかしく、日本産のツキノワグマやヒグマでも、毎年繁殖させている所は少ないのです。クマ類の繁殖が割合難かしいのは、第一に親グマに比して仔グマが大変小さく、このため妊娠しているのかどうか外部から見わけるのが不可能な事、そして仔グマが小さい為肺炎などの病気に弱く、もう一つは、親が仔を哺育する為には暗く静かな所で休眠状態にしてやる事が必要だからです。特に冬眠をするクマでは冬眠状態の中で出産し、冬眠しない北極グマでも雌は氷の穴の中で冬眠状態となって出産すると云います。熱帯産のクマについては良く知りませんが、出産前後はしばらく穴の中であまり動かず、餌もあまり取らない様です。

ところで、クマ科にはヒグマ属、ヒマラヤグマ属、アメリカクロクマ属、北極グマ属、ナマケグマ属、メガネグマ属の7つの属があり8種に分類されていますが、のぼりべつクマ牧場では全て北海道産のヒグマで現在 160頭ほど飼育しています。他のクマ類については良く知りませんので、私の飼育しているヒグマの例をお話しします。

1. 発情。発情期は4月下旬から7月上旬までの間で、この間に雌は何度も交尾します。交尾時間は比較的長く、15~30分程度時には1時間以上にもなる事が有ります。仔グマが成長して最初の発情が有るのは、生後2年3ヶ月目で、もう繁殖能力が有りますが、この年で妊娠することはあまり無く、初産は4才ぐらいいからが多い様です。

2. 出産。210~220日ぐらいの妊娠期間の後、1月~2月上旬ぐらいの間に出産します。仔は体重が300~600gほどしか無く、目はまだ開かず、体毛は普通生まれた時に有るものですが毛の無い仔が産れる時もまれではありません。この様に仔グマが小さいのに妊娠期間が長いのは、受精卵が子宮粘膜炎に着床する時期がおくれる為だと考えられています。産仔数は1~3頭ですが、牧場で3頭生れた事は無く、2頭が最も多く60%で、1頭が40%の割合です。

3. 生長。この小さな仔グマは急速に生長し、30日ほどで目が開き、このころから歩ける様になり、親グマの腹の下から出てきます。この時期になると仔グマは、1日に100g近くも体重が増加し、1年で出産時の100倍にもなります。しかし、仔グマが小さいため、肺炎などの病気に弱く、仔グマの死亡率は3割ほどで、この内8割は生後10以内に死亡してしまいます。死亡原因の半数以上が肺炎ですが、これは出産時期が1~2月の最も寒い時期であることにも原因が有り、産室内は、0℃~0.5℃ですが、寒い時には-5℃以下にもなります。

飼育しているクマは、野生のクマと異なり、冬眠しませんが飼育下で繁殖させるためには、雌グマを冬眠状態にしてやらね



(生後二カ月程の仔グマ)

ばなりません。この為、秋から冬にかけて充分に栄養をつけてやり、12月下旬になったら産室に入れ、餌を少なくしていくと、出産するクマは、冬眠状態となります。この時産室は、暗く静かで、あまり広くない事が大事です。特にクマから外が大きく見える室では、うまく哺育しない様です。また野生のクマは仔をよく次の年まで哺育すると云われており、野生の仔グマにとって、最大の敵は雄グマですので、出産した年の春、雌グマは正常な発情があるにもかかわらず、仔をまもって、雄グマを近づけないので、1年おきに仔を生むと云われていますが、飼育下のクマでは、発情期の直前の4月下旬に親グマから仔を取ってしまうため、毎年でも出産します。私の所で飼育しているクマでは、5年間つづけて出産しているクマが居ます。しかし確実に繁殖させる時は、1年おきに交尾させるのが良く、1年交尾させなかったクマを交尾させると、100%繁殖に成功します。

現在ののぼりべつクマ牧場には、出産年令になった雌グマが23頭おり、この内3分の2が産出し、仔グマの生率在率が7割で、出産したクマの6割が2頭の仔を生みますので、大体、出産年令になった雌グマの数ほどの仔グマが繁殖しているわけです。以上がのぼりべつクマ牧場におけるヒグマの例ですが、繁殖については、ツキノワグマや、北極グマでも、それほど大きな差はありませんが、北極グマでは、親グマを哺育する状態にする為には、ヒグマより以上に気をつけなければならない様です。日本で北極グマの繁殖に成功しないのは、一つには、クマが安心して哺育出来る産室の研究が不足しているのでは無いかと思います。早く日本でも北極グマの繁殖を成功させたいものです。クマ牧場でも、世界中のクマを集めて繁殖させて見たいと思っておりますが、まだそこまで手が回らず残念です。

(のぼりべつクマ牧場)

表紙の写真説明

“ニホングマ”

真黒い毛におおわれていますが、胸のあたりに白い毛が三日月がたにあるので、ツキノワグマともいわれます。

一見おとなしそうに見えますが、気のきつい猛獣です。

動物園グラフ



“マレーグマ”

池の中にかうつっているよ！
わあーい顔がゆがんでるよ！
この前からやっど、皆さんにお目見得しています。仲よしなんだが時々、けんかもします。



“クマ”

天王寺動物園には、現在クマ科が4種おり、南園のくま放飼場で、愛嬌をふりまっています。シロクマ、マレーグマ、ニホンクマ、エゾヒクマで、その一姿をご紹介します。



“エゾヒクマ”

背中がかゆいや！と立ちあがって、壁でゴリゴリ。
おぎようぎよくおすわりして、お客さんにお菓子をおねだり。



“シロクマ”

冬は得意とばかり、つめたい水にザブリとダイビング。
「イー湯だなー」といわんばかり。



“ニホンクマ”

アア、たいくつだなあ！
狭い運動場ではあきちゃったなあ！
相撲でもとろうっと！



1月・2月動物園日記

- 1/28 キソウマが仙痛をおこして治療を受けています。
- 29. かもしか園でエランドのめすが、妊娠をして気の立っているめすオリックスに、角でひっかけられてかなり大けがをしてみました。その後、傷口の治療や可膿どめの薬を飲ませて治療につとめましたので、2週間ほどしてすっかりよくなりました。
- センランが産卵しました。(2コ) いつもより約2週間も早い産卵です。
- 30. 今冬2回目のニューカッスルの生ワクチン投与を

- 行ないました。
- 31. 放飼中のフラミンゴの羽根がはえそろってしまうと、飛び出すので点検し、伸びたのは切ってやりました。
- 2/1. サイの赤ちゃんが生まれました。母子ともに元気ですが、哺乳の状況を確認するため、夜間の観察もしばらく続けることにしました。
- 2. フクロギツネ2頭が入園しました。トラのめす1頭が、動物交換として出園しました。
- 5. キソウマは、治療の結果すっかりよくなりました。ニホンザルの赤ちゃんが生まれました。シュバシコウ2羽が、動物交換のため出園しまし

- た。
- 7. 近畿ブロックの動物園獣医並びに飼育技術者の研究会が大阪で開かれました。
- 10. オリックスの赤ちゃんが生まれましたが、時間がたっても哺乳せず、係を心配させています。2月に入って、雨続きの寒い日が多く、こんなうっとうしい天気にも、かなり影響されているようです。
- 11. オリックスの赤ちゃんを人口哺育することになり病院に引き取りました。
- 13. トコ・ツーカン1羽が死亡しました。
- 14. オシドリが巣に入っていますので、産卵するのを楽しみにしています。

- 15. 1昨年、エチオピア国から万博を記念してもらったライオンは、すっかり大きくなり、はじめて交尾を確認しました。
- 16. 人工哺育中のオリックスの赤ちゃんは、人工哺育1週間、衰弱がひどく死亡しました。シュバシコウの高い巣8つに、巣材を入れてやりいつでも産卵できるように準備をしてやりました。
- 19. 25日の誕生のおひろめを前に、サイの赤ちゃんを運動場に出す予行練習を行ないましたが、赤ちゃんは、警戒心が強く、なかなか出てきませんでした。

「クマ」に関する 調査報告の概要

山崎 泰

はじめに

日動水協加盟の動物園水族館飼育下の「クマ」についてその実態を調査し、昭和46年11月、徳山市立動物園で開催された、第19回全国獣医並びに飼育技術者研究会において、調査結果を発表したがその概要をここに報告する。

調査内容は、飼育頭数、餌、施設、環境、個体、繁殖、疾病、死亡についてであり、調査対象期間は、昭和35年4月1日～昭和45年3月31日までにわたる10ヶ年間であります。

内容

1. クマはどの位飼われているか。

第一次調査結果、日動水協加盟の回答数52園館中、該当しない園館は、わずか8園であり、クマの飼育は44園館(84.6%)という高い保有率を示し、これを種類別に分けると、ニホンツキノワグマ(43園)エゾヒグマ(34園)と大変高い保有率で動物園の看板的存在であることを示している。日本産のクマで入手が簡単であるだけでなく、雑食性が強く飼育が容易であり動作に愛嬌があるので鑑賞価値が高いものと考えられる。

飼育頭数及び性別比は、S45年3月31日現在 230頭であり、調査期間10ヶ年間平均 215.4頭と大型雑食獣中最も高い飼育数を示し、種類別頭数も ①ニホンツキノワグマ、②エゾヒグマ、③ホッキョクグマ、④マレーグマ ⑤ヒマラヤグマの順で多く飼育され、この順序が10ヶ年間変化していないのも興味がある点である。性別比も10ヶ年を通じ雄雌ほぼ同率に飼育され、雄がやや、多数飼育されているものと考えられる。

2. 餌について

餌の種類は、対象園館がクマ全種類に与えている餌として全部で36種類で、雑食性の強さを示し、種類別にはニホンツキノワグマが最も多く30種で、ヒマラヤグマが10種である。餌の種類数を園館別にすると4種類の餌を与えている園館が28園(23.9%)で最も多く、3種類の餌が27園(23.16%)、5種類餌が24園(20.5%)、6種類餌が15園(12.8%)、1種類餌は6(5.12%)となっている。

1日1頭当り給餌量は、総給餌量的にはクマ全体を通じ 2.5kg～5kgが最も多く全体の40%を示しついで5～7.5kg(23%)となっている。カロリー的には2000～5000カロリーが最も多く35%、5000～8000カロリー33%で、種類別には、ホッキョクグマが最も多く量的平均8.66kg、カロリー的にも平均12.4Calを示し、ニホンツキノワグマ(量的平均4.92kg、カロリーの平均 6.2Cal)の倍量を給餌されている。また1日1頭当り糞便量は、平均値でエゾヒグマ2.98kg、ナマケグマ2.86kg、ホッキョクグマ2.64kg、ニホンツキノワグマ2.25kg、ヒマラヤグマ1.25kg、マレーグマ1.17kgの順で、クマ全体で2.04kgの糞便量が示され、平均給餌量4.57kgの約半分を示している。給餌方法は、生で与えているか、煮て与えているか種類別でその割合が異なり、ナマケグマが煮て与える餌の比率67%と最も高く、ホッキョクグマは17%と最も低く、生の餌を多く与えられている結果が示されている。クマ全体では全く煮ない59園(50%)一部煮る41園(35%)全部煮る

18園(15%)となり、全く煮ない園館と煮た餌を与える園館は対比している。餌の季節的变化があるのはニホンツキノワグマに多く11園、全くないのはマレーグマ、ヒマラヤグマ、アメリカクロクマ、メガネグマであり、ホッキョクグマは3園だけあり、17園は変化なしを示し、クマ全体では変化なしが66園(56%)があり21園(17.8%)不明園31園(26.2%)であった。給餌回数は夕方1回与える園館が多く73園(61.8%)、朝1回が23園(19.5%)、朝夕2回は18園(15.3%)となっている。ただ、エゾヒグマは25園中21園が朝1回与えるので他のクマとは異った給餌時間となっている。定期的絶食も行わない園が多く全体の76.2%だが、ホッキョクグマに絶食が多く、7日に1回が22園中8園で(37%)あった。添加物は、ホッキョクグマに適時与えている園館が22園中8園(37%)と最も多く、クマ全体では与えていない園86園(73%)常時与えている7園(5.8%)適時与えている15園(12.7%)である。

3. 施設及び飼育環境

収容場所は、屋内・屋外両方利用が多く71園(70%)、その内夜間必ずしも寝室に収容する園は30園館、冬期に寝室に収容する園は6園館である。換気通風は運動場寝室とも普通の園が多く60園(51%)を示し、良い園館は運動場が48園(40%)であるが、寝室では16園(13%)で寝室は換気通風は良くないようであった。

運動場の面積は、大型のクマ、エゾヒグマ、ホッキョクグマで50㎡以上が多く、ニホンツキノワグマ、マレーグマ、ヒマラヤグマは、20㎡が多い。どの種のクマも10㎡以下の運動場は認められず、寝室の面積はどのクマも5㎡と10㎡が多く中間の広さが認められないが、マレーグマは3～5㎡、ホッキョクグマは10㎡を示している。水槽の面積はホッキョクグマが10㎡である以外、他のクマはほとんど3㎡以下が最も多い。水深はホッキョクグマの最高3.5m、平均 1.6m が最も深く、クマ全体では平均75cmである。

1日平均利用時間中の平均日照時間は種類により多少変化が見られ、クマ全体では運動場、冬期4時間25分、夏期6時間32分、寝室は、冬期2時間41分、夏期2時間47分を示し運動場の夏期と冬期の差は約2時間であるが寝室は差がほとんどない。

収容舎の方向(長軸の方向と観客の見る方向)はクマの種類により多少の変化を認めたが、運動場寝室とも長軸の方向は東西(E-N)が最も多く観客が見る方向は南北(S-N)が多い。たゞ寝室に個体が入舎した場合見られない園が24園(21%)と多い数値を示している。

運動場、寝室、水そうの利用時間は、夏期はどのクマもほとんど運動場を利用し平均9時間11分で、冬は8時間29分である。その反面寝室の利用は冬も夏も差が少く夏15:50、冬15:28である。プールの利用は夏平均1時間58分で冬期ホッキョクグマが最高3時間利用する以外は、平均37分ほどしか利用しない状態を示している。

飼育管理については、排水の良い収容舎が多く、全クマ舎 117中92園であり、糞便汚物処理も97園が水洗で処理し、焼却が25園、処理場を持つ園がわずか21園である。収容舎の利点欠点は、欠点ありは64園で中でもニホンツキノワグマ舎の欠点は最も多い。その内容の主なものには寝室、プールが狭い5園、換気採光が悪い3園、寝室内の個体が見られない7園、シュートが狭く操作困難3園、などであり、117園中44園が設立後改造を行い36園が修理を行っている。

キーパーの通路は作業効率と危険度にも関係があるが出入口巾最大2.5mと最小巾0.5m平均 0.986mで約1mの通路が多く、高さは1.8mが最高で最低0.75m、平均1.68mである。態の出入口の広さはエゾヒグマ、ホッキョクグマなど大型のクマと、マレーグマ、ニホンツキノワグマなど小型のクマもほぼ同じで全体的に出入口巾は最高1.66m、最低0.5m、平均 0.738mで高さは最高1.8m最低 0.5m、平均 0.938mを示し、成獣の場合や、通りにくいシュートが多いようである。外柵は鉄柵がほとんどであり漆を利用した園館は、117園中29園で、外柵と獣舎の距離もエゾヒグマ12.5mを最高に、5.5～10mが最も多く安全で見やすい状態であるが最短距離の平均 0.5m

は危険度が高いと思われる。クマ舎全体の平均値は2.67mを示している。

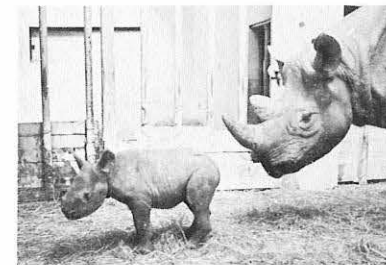
獣舎の鉄材で鉄棒の間隔最大は、ホッキョクグマ15cm、最小ニホンツキノワグマ 3.5cm、クマ舎全体の平均は7.8cmである。漆の深さは最大、ホッキョクグマ6m、最小2mで平均は 3.5m、巾は最大エゾヒグマ5.15m、最小ヒマラヤグマ 1.4m、平均 3.306mとなっている。

以上、調査内容中、飼育頭数、餌、施設及び環境についてのみデータを列記した状態で、不十分ではありますが紙面の都合上省略致しました。なお調査内容中、個体、繁殖、疾病、死亡については、次の機会を得て報告させていただきます。

(愛媛県立道後動物園)

物動物園ニュース

★サイの赤ちゃん誕生



2月1日の朝当園ではじめてクロサイの赤ちゃん(めす)が生まれました。

親サイは

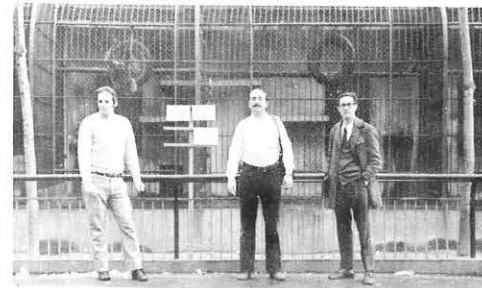
落ちていてよく赤ちゃんの面倒をみ、お乳も上手にあたえていますので、すくすく大きくなっています。

お産をしたサイは7年前に入園しました。おすは、それより半年前に入園していました。まだ、どちらもかわいいというぐらい小さかったのですが、しだいに立派に成長し、45年頃には、ぼちぼち交尾がみかけられ、ひよっとしたら赤ちゃんが生まれるのではという期待をもたせていました。サイの妊娠期間は約540日というながい日数がかかります。流産でもしたら大変と大事に育て、きました。

2月25日には、市長を迎えて盛大に披露をし一般の入園者に公開しました。

なおクロサイの出産は、神戸王子動物園で3回ありますが、サイの出産は珍しいのです。

★サンパウロの工業実務研修生 来園



1月16日、大阪サンパウロ姉妹都市協会が招待した工業実務研修生3名が来園され、昨年、サンパウロから、当園に贈られた、フサオマキザルヤツカンなどを見てしばし故郷を偲びました。

又、園内を一巡し、施設が整備されているのに感心していました。

★かわいいなあー！トラの赤ちゃん



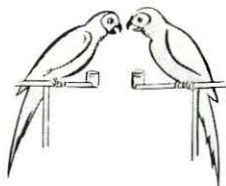
トラの放飼場では、いつも子供たちの喚声が上がっています。昨年10月28日に生まれた2頭のトラの赤ちゃんは今ちょうどかわいいさかりで、元気に広い放飼場を駆けまわったり、じゃれあったり、写真のように、母親トラとねそべったりしています。

もちろん大人にも人気があり、母親のこまやかな愛育ぶりやいかめしい父親トラはいつも遠慮がちに遠くにすわっていて、子供にあまり近づかないなど、人間にもあてはまるような情景が見られ、えましい。

なきごえ 昭和47年3月15日発行(毎月1回15日発行)第8巻第3号(通巻80号)

編集 / 大阪市天王寺動物園
発行人 / 大阪市天王寺動物園協会 加藤寿雄
印刷所 / 株式会社 松村善進堂

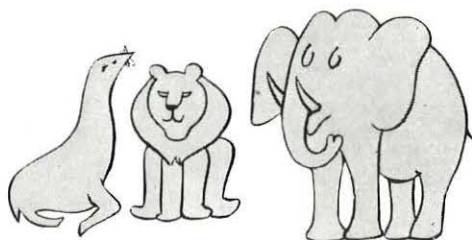
〒543 大阪市天王寺区玉水町2
電話 大阪 (06)771-0201
振替口座 大阪 37823
定価100円(送料共)・1年継続(12部)1,100円(送料共)



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円



有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話 (078)22-8195・22-1517
 飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話 (078)24-3494



オイシサも…
品質も…
グリーンとアップ!
グリコジャイアンツコーン

●ハニラ・ナッツ・チョコレート

30円50円



★とろりとした
良質のチョコレートに
ナッツがかかっている!

グリコ アイスクリーム

江崎 グリコ 株式会社